

令和7年度 第4次蒲郡市男女共同参画プラン策定委員会 第5回会議

日 時 令和8年2月16日(月)

13時30分～14時30分

場 所 市役所本館303会議室

1 協働まちづくり課長あいさつ

※欠席委員3名

2 議事

(1) 報告

- ・パブリックコメントの実施について
- ・「がまごおりジェンダー平等プラン2031」の本編及び概要版について

≪配布資料≫

- ・がまごおりジェンダー平等プラン2031 本編
- ・がまごおりジェンダー平等プラン2031 概要版

2 議事

(1) がまごおりジェンダー平等プラン2031本編及び概要版について

- 委員長：概要版はどのように配布する予定か。数は2000部ほどで足りるか。
- 事務局：数は2000部、学校関係や推進委員会、講座・講演会での配布を考えている。掲載許可はまだとれていないが、学校関係でいうと「コドモン」などを活用しながら、デジタルでの閲覧もできないか調整してみたい。
- 委員長：できれば学生の方や、皆さんに知ってもらえるような工夫をしていただきたい。ずっと関わってきたが、表紙や中身がカラフルになって、見てみようかなと思ってもらえるようなものになったのでよかった。
- 事務局：本来、当初の契約では簡素なものになる予定でした。サーベイリサーチセンターさんがフルカラーでご対応いただきよかったです、ありがとうございました。
- 委員長：これで完成ということで、きちんとしたものが出来上がったなら皆さんにも配布していただけるのか。
- 事務局：この後も説明しますが、3月に議会で報告をし、確定してから印刷となる。製本されたものは3月下旬頃に納品され次第、皆様にご共有させていただく。
- 委員長：これでプランの策定・策定委員会は終了となりますが、5年の間に年に1回の推進委員会は引き続き実施か。
- 事務局：その予定であり、プランが始まってからも今後皆さんに協力をしてもらいたいと考えている。
- 委員長：ご希望があれば、継続して進めていただければと存じます。

(2) 1年間の感想

- A委員：ジェンダー平等や女性活躍、暮らしの安心安全の実現が柱となって、これに関わることを学び、プランが完成して、これからの蒲郡市にとって非常に貴重なものができたと思っている。教育現場でも、2027年の4月から蒲郡市内では中学生の制服は男女共にジャケット、スラックスとスカートは自由に選択できるようになり、子どもたちにも自然と根付いてきている。この参画プランがこれからも推進していく中でリーダー的なものになっていくと思うので、是非活用してほしい。

- B委員：商工会議所の立場では、男女平等の働く場づくりがメインかなと思って参加してきたが、それだけではなく、働く人の意識が変わらないといけないということが理解できた。今後も商工会議所の中でもPRをしていきたい。職場の中でも半数が女性で平等でやっているつもりでも、まだまだ男性優位の環境があるので、変えていけたらいいなと思っている。
- C委員：この委員会に入るまでは「男女共同参画」についてピンときておらず他人事のように思っていたが、企業のトップとして時代の変化を受け入れて課題に向き合うことが大切だと感じた。課題の一つとして、男性の育休を笑顔で送り出せていない、リーダーに休まれると困るなど感じてしまう現状がある。また、介護でお休みになる方も増えていて、現場で困ったなど感じる風潮もある。こういったネガティブなイメージが多いが、会社のトップとしてポジティブなメッセージをもっと発信できるようになりたい。
- D委員：私自身も参加するまでは「男女共同参画」を考える機会はなかったが、この機会で自分の子どもの先々の社会がどうなっていくと良いかと考える機会になった。市の方にはこのプランを定着させるようお願いしたいことに加えて、自分自身も一市民として周りの人にそういった意識を広げられたらと思う。
- E委員：4次プランの素晴らしかった点を振り返ると、ジェンダーの分野は現実と理想が離れているので概念が先行しがちだが、今回は「調査・立案→課題の考察→基本目標・重点目標に力を入れる」という流れを、EBPMに基づいた政策立案ができたことがよかった。しかしその分、高い理想を掲げないと改善していかないという面もある。今後は若い方からあらゆる分野へどういう風に実現していくか、運営側が担っていくことが必要と感じ、身が引き締まる想い。先ほどC委員も仰っていたが、男性も意識が改革されてきてはいるが、実際はまだ追いついていないという状況は教育現場もまさにそうで、現実的には人手が回らないので育休をとれないし有給を取らなければいけない。恵まれた市役所だけではなく、現実社会の企業でもどうやって蒲都市を魅力的な街にしていくかが今後6年の課題だなと感じている。
- F委員：防災士という立場で参加させていただきました。ジェンダー平等については所属しているガールスカウトでも大きな課題の一つ。若い世代から高齢の方まで取り組んでいるがなかなか皆さんに浸透していかない。育休や男女平等という言葉としては認識している人も多いが、「男女共同参画」といっても聞く耳を持たれないのが一般的な感覚なのかなと思う。今回の概要版がすごく良いと思ったので、社会教育委員会や、学校にいる支援員さんや推進員さんにも配布していただき、忙しい中でもジェンダー平等の視点から日々の活動を考えてもらいたいと思う。

- G委員：1 蒲都市には総代が48名いるが、全員男性。住んでいる平田町は420世帯あり、組が5つに分かれていて、令和7年度に組長をやっていた女性が3名、令和8年度も3名の女性組長を予定している。去年についても女性の組長にはそんな色なく働いていただいた。今回策定委員会に選ばれたことをきっかけとして、性別に関わらず対等な立場で能力を発揮するということをしっかり認識し、この分野に興味を持って生活していきたい。
- 委員長：第1次プランの制定が2001年、そこから25年の間にDV相談窓口ができたり、パートナーシップ宣言制度ができたり、今の課長になってからずいぶん進んだと思う。しかし25年たっても男女共同参画の意識はまだまだかなとも思う。育児や介護についても、社会的に施設を活用するなど進んでいるので、やっとお嫁さんや娘が介護する等は減っては来た。しかし、やはりまだ女性に偏っている現状もある。介護はまだまだかもしれないが、若い世代は育児など男女平等が当たり前になっているように時代と共に男女共同参画は進んでいる。本当のワーク・ライフ・バランスがとれるといいなと思う。6年後にまたこのプランの見直しがあると思うが、その時には男性がこの委員の委員長をやる等、世の中の変化がみられるといいなと思う。皆さんの感想を聞いて、意識が変わった・行動を変えていきたいと仰っていて、大変うれしく思う。ぜひこれからもジェンダー平等の意識を忘れずにいてほしい。

以上